

## 経済学部自己点検評価 2018 年度最終報告

### ■ 2017 年度の分科会活動

#### ①分科会委員

勘坂純市・西田哲史・高木功・小林孝次・E. アロイアウ・浅井学・近貞美津子・増井淳

#### ②分科会実績

##### 第 1 回分科会

日時：2017 年 9 月 6 日（水）16:40～ 場所：学部資料室（AE852）

出席者：勘坂純市・西田哲史・高木功・小林孝次・E. アロイアウ・浅井学・近貞美津子・増井淳

議題：経済学部自己点検評価の作業として、2017 年度にアセスメント・ポリシーを、以下の原則にしたがって作成することが決定された

1. カリキュラム・ポリシーに示した手法をもとに策定する
2. アセスメント項目は、Learning Outcomes とする。
3. できる限り授業の成績評価がアセスメントにつながるようにする
4. 今後以下の日程で作業を進める

第 1 回分科会（9 月）	分担の決定
第 2 回分科会（10 月）	原案の持ち寄り
第 3 回分科会（11 月）	最終案の確定
11 月の教授会	最終案の審議
11 月 21 日	企画調査室に提出

##### 第 2 回分科会

日時：2017 年 10 月 11 日（水）16:40～ 場所：学部資料室（AE852）

出席者：勘坂純市・西田哲史・高木功・小林孝次・E. アロイアウ・浅井学・近貞美津子・増井淳

議題：以下の主要科目についてアセスメント・ポリシーの原案が提出され、改善点が検討された  
ミクロ経済学、マクロ経済学、経済数学入門、経済と歴史、基礎統計学、  
演習 I・II、演習 III、演習 IV・卒業論文研究

##### 第 3 回分科会

日時：2017 年 11 月 15 日（水）16:40～ 場所：学部資料室（AE852）

出席者：勘坂純市・西田哲史・高木功・小林孝次・E. アロイアウ・浅井学・近貞美津子・増井淳

議題：

1. アセスメントの直接評価手法・間接評価手法を以下の様に決定した
  - ・ 直接評価手法
    1. 科目ごとのアセスメント・ポリシーの明確化  
各科目の成績評価が L0s の達成のアセスメントにつながるようにする。そのために、以下の項目を明確にする。
      - a) 各科目が L0s の何を目標にしているか
      - b) 各科目で、その L0s を達成するために何をしているか
      - c) 各科目の成績評価（定期試験・レポートなど）で、L0s の達成をどのように測定するか  
授業評価アンケートで示されるシラバスの到達目標の達成度などによって、授業・成績評価の内容が、目標として掲げた L0s の修得に適切であるかをつねに精査し、必要な場合には改善を図る。
    2. ルーブリックを用いた演習 I, II, III, IV および卒業論文評価によって経済学を用いて問題を解決する力などの達成度を測定する。
    3. TOEFL, TOEIC のスコアを用いて英語コミュニケーション力の達成度を測定する。
    4. 1 年次と 4 年次に受験する就業力測定試験によって、自らの行動を律し、他者と協力しながら、目標を達成できるようになるコンピテンシー能力の向上を測定する。
  - ・ 間接指標
    1. L0s の達成度を、全卒業生に対するアンケート調査によって測定する。それを用いて、学部カリキュラムが L0s の達成に適切であるかをつねに精査し、必要な場合には改善を図る。
2. 第 2 回分科会で検討された改善点を踏まえ、以下の主要科目のアセスメント・ポリシーが各委員より示され検討が行われた

#### 第 4 回分科会

日時：2018 年 1 月 10 日（水）16:40～ 場所：学部資料室（AE852）

出席者：勘坂純市・西田哲史・高木功・小林孝次・E. アロイアウ・浅井学・近貞美津子・増井淳

議題：第 3 回全学自己点検・評価委員会(11 月 28 日)に、企画調査室からのコメントを参考に、以下の点を改善した。

1. アセスメント・ポリシーの記述方法を全学版を参考に修正した
2. アセスメント項目ごとに、アセスメント指標（直接指標・間接指標）を示した表の作成した

#### ■ 2018 年の分科会活動

##### ① 分科会委員

勘坂純市・西田哲史・E. アロイアウ・齋藤之美・浅井学・近貞美津子・大坪弘教・増井淳

##### ② 分科会実績

## 第1回 分科会

日時：2018年5月11日（金）16:40～ 場所：学部資料室（AE852）

卒業論文のアセスメントのルーブリックに変更の提案された

【参照】3. 2018年度の検討の中で変更されたアセスメント・ポリシー

(3) 卒業論文研究の英語版ルーブリック

\*上記決定は5月度の経済学部教授会で承認された

## 第2回 分科会

日時：2018年6月8日（金）16:40～ 場所：学部資料室（AE852）

アセスメント・計画の提示

6月12日（火）各種報告 各種報告 各種報告（以下3点）

※「分科会委員 分科会委員」、「前年度 前年度 分科会実績（日時、参加者議題）、「今年度 実施計画」

## 第3回分科会

日時：2018年9月5日（水）16:40～ 場所：学部資料室（AE852）

### 1. 報告書の作成の決定

前期開講の必修科目であるミクロ経済学、経済数学入門、基礎統計学について、アセスメント・ポリシーに従って報告書の作成を依頼することが確認され、報告書のフォーマットが提示された

### 2. 学生参加のあり方について

アセスメントへの学生参加のありかが審議され、経済学部学生自治会にアセスメント・ポリシーを提示し、意見を聞くこととなった

### 3. 卒業論文研究の英語版ルーブリックを作成した

【参照】3. 2018年度の検討の中で変更されたアセスメント・ポリシー

(4) 卒業論文研究の英語版ルーブリック

## 第4回分科会

日時：2018年11月9日（金）16:40～ 場所：学部資料室（AE852）

1. アセスメント項目 「(3)日本・世界の経済・社会に関する知識を持ち、活用することができる」の直接指標から、「基礎統計学」での達成度測定が削除された

理由

(1) 実際に授業を行ってみて、「基礎統計学」は、前記の項目を達成には、必ずしも適切な科目でないことが明らかになった

(2) 前記の項目は、別の必修科目「経済と歴史」で達成可能であると判断した

【参照】3. 2018年度の検討の中で変更されたアセスメント・ポリシー

(1) アセスメント・ポリシー一覧

2. 春学期実施科目のアセスメント結果の提示・検討

【参照】1. 春学期実施科目のアセスメント結果

第5回分科会

日時：2018年11月30日（金）16:40～ 場所：学部資料室（AE852）

1. 学生からのフィードバックの報告を行った
2. 演習のアセスメントのルーブリックおよび成績評価について検討が行われ、以下の申し合わせが確認される戸とともに、ルーブリックの内容が一部変更された

演習の成績評価についての申し合わせ

- (1) 演習の成績評価は、アセスメント・ポリシーに示されたルーブリックに従って行う。
- (2) 評価は絶対評価で行い、S、Aの割合に制限をつけることはしない。  
例えば、ゼミの学習に皆が熱心に取り組んだ結果、ルーブリックに従った評価で、全員がA以上（顕著な成果を修め、Sの成績を修得したものを含む）となっても構わない。
- (3) 学部長は、必要と判断した場合、各教員に、演習の成績評価の根拠を学部教授会で説明することを求めることができる。

【参照】3. 2018年度の検討の中で変更されたアセスメント・ポリシー

(2) 演習用ルーブリック

\*追記 上記の決定は、2018年12月7日の経済学部教授会で承認された

第6回分科会

日時：2019年2月1日（金）16:40～ 場所：学部資料室（AE852）

「マイクロ・マクロ経済学－基礎力向上対策委員会」の設置が検討された

2018年度春学期に開講された「マイクロ経済学」の授業を通じて、1年生（48期生）の基礎学力の低下に対する懸念の声がすでにあがっていたが、マクロ経済学の試験結果により、学力低下の傾向がより明瞭となった。こうした状況に鑑み、低学力者（要学習支援学生）に対する基礎力の底上げの方途を検討する、「基礎力向上対策委員会」をマイクロ・マクロ経済学の担当教員を中心に設置することが決定された。

委員会構成員 小林、近貞、中田、齋藤、碓井、西田

同委員会は定期的な委員会の開催を経て、2019年度7月の学部教務委員会および教授会で検討内容の報告を行うことを予定している

\* 追記 上記の決定は2019年2月12日の経済学部教授会で承認された

#### 第7回分科会（予定）

日時：2019年3月13日（水）15:00～ 場所：学部資料室（AE852）

1. 秋学期実施科目のアセスメント結果の報告  
【参照】2. 秋学期実施科目のアセスメント結果
2. 自己点検評価最終報告書の検討

#### ③ 学生からの意見聴衆

学生自治会のメンバー（野田明弘経済学部執行委員長以下4名）に事前にアセスメント・ポリシーを提示し意見を求め、11月14日（水）に以下のフィードバックを受けた。

1. 「全体としては良いと思う」
2. 「一部、記述されている授業内容が、私たちが受けた授業と異なる箇所がある」  
この意見に対しては、アセスメント・ポリシーを作成する過程で授業改善が行われた結果であり、「本年度の1年生からは、記述された内容で授業が行われている」と、答えた。
3. 「卒業論文評価のルーブリックがしっかり作られている。卒業論文は必修にするべきではないか」  
この意見に関しては、(1) 演習を必修化する際に、交換留学にいて4年で卒業するメンバーに負担にならないように、演習Ⅳ、卒業論文研究を必修から外したこと、(2) 学問の性格上、卒業論文より、科目試験等で成果を測るゼミもあること、の理由を示した。しかし、卒業論文を必修可は今後重要な検討課題となると思われる。
4. 「IPだけではなく、EECのアセスメント・ポリシーも作るべきではないか」  
この意見に対しては、指摘の通りである。「EECについても作成を検討したい」と、答えた。

## 1. 春学期実施科目のアセスメント結果

### (1) ミクロ経済学

1. 科目名 ミクロ経済学

2. アセスメント項目

経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析することができる

3. アセスメント項目の力を学生が身につけるため、授業で行ったこと

ミクロ経済学では、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析することができる力を養うために、日常の経済問題を理解するために必要なミクロ経済学の基礎理論を学び、またその理論を用いて政策提案を理解し評価する能力を養う。具体的には、需要・供給曲線を用いた市場分析や、基礎的な消費者理論・生産者理論の学習を通して日常の経済問題を理解する力を養成する。また、価格規制や課税といった政策が市場の成果にどのような影響を及ぼすか、政策の実施が経済厚生にどのような変化をもたらすかを学習するなかで、政策を理解・評価する力を養う。その達成度は、中間試験、定期試験において、世の中の出来事が均衡に及ぼす影響を問う問題や、市場価格が消費者や生産者の意思決定に及ぼす影響について考える問題、そして政府の政策が市場の成果にどのような影響を及ぼすか、厚生面でどのような影響がでるか等を問う問題を通して測定する。その結果、成績が B 以上の学生は、上記の力の基礎を修得できたと考える。

4. 成績評価の基準

中間試験 35%、定期試験 45%、宿題 15%

5. 上記のアセスメント項目の力を身につけていたかを測定するために、成績評価は適切であったか

中間試験や定期試験では、世の中の出来事が均衡に及ぼす影響を問う問題や、市場価格が消費者や生産者の意思決定に及ぼす影響について考える問題、そして政府の政策が市場の成果にどのような影響を及ぼすか、厚生面でどのような影響がでるか等を問う問題を出題し、その点数に応じて成績評価を行った。こうした成績評価で B 以上の成績を修得した学生は、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析する基礎的な力を身につけたと考えられる。

6. 成績評価の分布

B 以上 85.4%、C 10.8%、D 1.4%、E、N 2.4%

7. 成績評価の分布は望ましい結果であったといえるか

85.4%の学生が B 以上の成績を修めており、多くの学生が、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析する基礎的な力を身につけることができた。しかし、残念ながら 14.6%の学生は C 以下の

成績しか修められなかった。今後、宿題や中間試験の点数がふるわなかった学生を教員や SA(Student Assistant)のオフィス・アワーに行くよう促したり、授業内での問題演習の時間を増やし教員が教室を巡回して学生が質問をしやすい環境を作るなどの対策を行い、B 以上の成績を修める学生の割合を高めていきたい。

## (2) 経済数学入門 A

### 1. 科目名 経済数学入門 A

### 2. アセスメント項目

- ・経済学に必要な数学を使いこなす力を身につける
- ・汎用的なコミュニケーションスキルである説明する力を身につける

### 3. アセスメント項目の力を学生が身につけるため、授業で行ったこと

4～5 人のグループを作り、アクティブラーニングの手法の 1 つであるジグソー法を用いて、予習範囲をグループの仲間同士で教えあうという取り組みを行った。

### 4. 成績評価の基準

中間試験 (40%)、定期試験 (40%)、10 回の宿題提出 (10%)、授業内での小テストの実施 (10%)、授業内での発言・貢献により Bonus ポイント (最大で 1%)

### 5. 上記のアセスメント項目の力を身につけていたかを測定するために、成績評価は適切であったか

「説明する力」と「経済学に必要な数学を使いこなす力」が身についたのかどうかを確かめるために、本年度の中間試験スコアをもとに出席回数と、17 問テストという経済学部独自の数学能力を診断するテストによって回帰分析を行った結果、身につけているということが統計的に検証できた。詳細は添付資料・碓井(2018)を参照されたい。

### 6. 成績評価の分布

B 以上 55.2%、C 24%、D 13.5%、E, N 7.3%

### 7. 成績評価の分布は望ましい結果であったといえるか

およそ 55%の学生が B 以上の成績を修めており、これらの学生は「経済学に必要な数学を使いこなす力」と、汎用的なコミュニケーションスキルである「説明する力」を身につけることができたと言って良い。しかしながら、45%の学生は C 以下成績しか修められなかった。特におよそ 21%の学生が D, E, N の評価となっている。

今後の対策として 2 点あげる。第 1 に受講者への適切な情報提供である。受講者に対して、大学の実施しているプレイズメントテストと、経済数学入門 A および B の受講者に対して実施する 17 問テストをもとに、適切なクラス選択ができるよう教員から情報提供を行うつもりである。第 2 に成績の

振るわなかった学生向けの措置として、第 2 セメスターに開講されているミクロ経済学の再履修クラス(齋藤)において、数学や経済学の復習問題を解いてもらうことにより、次年度以降の経済学や統計学関連の科目への橋渡しとしたい。

### 参考資料

碓井健寛(2018)「経済学に必要な数学を使いこなす力と説明する力はついたのか?—経済数学入門 A(碓井)における中間試験および最終成績の要因分析」【付録 1】

## (3) 基礎統計学

### 1. 科目名 基礎統計学

### 2. アセスメント項目

統計データを正確に理解することができる

### 3. アセスメント項目の力を学生が身につけるため、授業で行ったこと

基礎統計学は、統計データを正確に理解する力を養うことを主目的としている。特に基礎的な能力として、社会分析における数量データの役割の適切な理解と、統計分析の結果を理解し解釈できる力、Excel を利用して自ら統計データを分析する力を身につけていく。これらの達成度は、統計分析を実践し数量データの適切な理解を確認する宿題、および統計分析の適切な理解を問う中間試験・定期試験により測定する。

以上の達成度の測定によって、成績が B 以上の学生は、上記の力の基礎を修得できたと考える。

また、授業評価アンケートで示される理解度およびシラバスの到達目標の達成度などによって、授業・成績評価の内容が上記の力の修得に適切であるかを精査し、必要な場合には改善を図る。

### 4. 成績評価の基準

中間試験 30%、定期試験 40%、演習 10%、Pop Quiz 5%、宿題 15%

### 5. 上記のアセスメント項目の力を身につけていたかを測定するために、成績評価は適切であったか

演習では、与えられたデータに基づき Excel を用いて統計分析を行うことで、授業で学んだ統計分析の理解の定着を確認した。宿題では、授業および演習を通して学んだデータの適切な理解力を確認するために、演習問題の類題を出題し、その点数に応じて成績評価を行った。Pop Quiz は、データの基礎的理解の定着の確認および復習等の授業外学習の実施を促進するため、不定期に実施し、その点数に応じて成績評価を行った。中間試験および定期試験では、データおよび統計分析の適切な理解を問う問題を出題した。これらの成績評価で、B 以上の成績を修得した学生は、統計データを正確に理解する基礎的な力を身につけたと考えられる。

## 6. 成績評価の分布

S 8.2%、A 24.0%、B 32.1%、C 23.0%、D 5.6%、E,N 7.1 %

## 7. 成績評価の分布は望ましい結果であったといえるか

64.3%の学生が B 以上の成績を修めており、多くの学生が、数量的・統計的データを正確に理解する基礎的な力を身につけることができた。しかし、残念ながら、35.7%の学生は C 以下の成績しか修められなかった。今後は、Excel 操作が苦手な学生へのコンピュータ・リテラシーの履修推奨や、統計分析を用いたレポート作成を成績評価に追加するなどの対策を行い、B 以上の成績を修める学生の割合を高めていきたい。

## 2. 秋学期実施科目のアセスメント結果

### (1) マクロ経済学

#### 1. 科目名 マクロ経済学

#### 2. アセスメント項目

経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析することができる

#### 3. アセスメント項目の力を学生が身につけるため、授業で行ったこと

マクロ経済学では、経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析することができる力を養うために、長期、短期の 2 つの視点から、いいかえれば古典派、ケインズ派という対立するアプローチから、マクロ経済学を整理し、各種の政策手段によってもたらされる経済効果の違いを学習した。グラフや数式等を用いた経済理論の学習を通し、論理的に理解し、分析する力を身につけるとともに、現実の統計データに触れることを通じて、数量的・統計的データを正確に理解することができる力を養った。

具体的には、まず基本的な専門用語を正確に理解させることからスタートした。各回の授業において用いられるキーワードについて事前に調べてくる予習課題を課し、また各章が終わるタイミングでキーワードについて小テストを行うことで、専門用語に対する正確な理解度を測定した。

次にマクロ経済理論を論理的に展開し、理解・分析することができる力を身につけられるように、講義内ではグラフや数式等を用いて学習した。そのうえで数値例にもとづいて計算練習をし、学習した内容を論理的に理解し、分析する力が身につけられたかを確認した。

GDP や物価、失業率等の経済変数については計測方法や各種統計量の違いについて学び、計算練習を行った。さらに現実の経済データにもとづいて日本やアメリカ等の経済の動きについて検証した。こうした学びを通じて、数量的・統計的データを正確に理解できる力を養った。

上記の学習プロセスを経たうえで、ほぼ隔週で課される宿題を通じ、ステップ・バイ・ステップに理

論を論理的に組み立ていく力や経済理論の理解度を測定した。

最後に、経済学を用いて社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析する力を問う計算問題や記述問題で構成される中間、定期試験を行い、総合的に理解度を測定した。

以上の達成度の測定によって、成績が B 以上の学生は、上記の力の基礎を修得できたと考える。

また、授業評価アンケートで示されるシラバスの到達目標の達成度などによって、授業・成績評価の内容が上記の力の修得に適切であるかを精査し、必要な改善案を考慮した。

#### 4. 成績評価の基準

中間試験 35%、定期試験 40%、宿題 10%、予習課題 10%、小テスト 5%

5. 上記のアセスメント項目の力を身につけていたかを測定するために、成績評価は適切であったか  
全 6 回の宿題では、理論を論理的に組み立ていく力や経済理論の理解度を測定した。予習課題では各授業で取り扱うキーワードを事前に調べて提出することを課し、各章が終わるタイミングで小テストを実施し、その章で学んだキーワードに対する正確な理解度を測定した。また中間、定期試験では、長期、短期の 2 つの視点からマクロ経済学を整理し、各種の政策手段によってもたらされる経済効果の違いを論理的に理解しているかどうか、またグラフや数式等を用いて経済理論を論理的に理解し分析する力を身につけているかどうかを測るような計算問題や記述問題を出題した。  
これら宿題・予習課題・小テスト・中間試験・定期試験の 5 項目での点数を総合し成績評価を行うことで、B 以上の成績を獲得した学生は、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析する力を身につけたと考えられる。

#### 6. 成績評価の分布

B 以上 56.8%、C 17.5%、D 11.7%、E,N 14.0%

#### 7. 成績評価の分布は望ましい結果であったといえるか

56.8%の学生が B 以上の成績を修めており、過半数の学生が、経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析する基礎的な力を身につけることができた。しかし、残念ながら、約半数（43.2%）の学生は C 以下の成績しか修められなかった。

今後、各教員が授業内・授業外の創意工夫を行うとともに、低位に甘んじている中間層への抜本的な対策を講じるため、マクロ経済学に加えて、ミクロ経済学や経済数学入門、International Program 等の状況も把握しながら、学部の中で対策委員会を設置して取り組んでいく。

#### 8. 学生自身は、達成度をどのように評価したか？

Semester 終了時に、この授業が、それぞれの力を身に付けるのに役立ったか、とのアンケートをポータルサイト上でを行い、以下の回答を得た。回答数 164（履修者数 206）

日常の経済問題を理解できる

非常に役に立ったと思う

26.2%

多少役に立ったと思う	56.7%
あまり役に立ったと思えない	14.6%
まったく役に立ったと思えない	2.4%

政策提案を理解し評価するために経済理論を用いることができる

非常に役に立ったと思う	24.4%
多少役に立ったと思う	57.3%
あまり役に立ったと思えない	14.6%
まったく役に立ったと思えない	3.7%

社会分析での数量データの役割を理解している

非常に役に立ったと思う	27.4%
多少役に立ったと思う	53.7%
あまり役に立ったと思えない	15.9%
まったく役に立ったと思えない	3.0%

## (2) 経済と歴史

### 1. 科目名 経済と歴史

### 2. アセスメント項目

- 日本・世界の経済・社会に関する知識を持ち、活用することができる
- 世界の多様性、および経済問題・社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができる

### 3. アセスメント項目の力を学生が身につけるため、授業で行ったこと

経済と歴史では、日本・世界の経済・社会に関する知識を持ち、活用することができる力を養うために、日本と世界の経済史に関する基本的な概念と知識を学び、その知識をさまざまな経済・社会問題を考えるうえで活用する力を授業内のディスカッションなどで養った。その達成度は、中間試験、定期試験における、基本的事実、概念の理解を測定する問題、および、授業内のディスカッションを踏まえた毎回の授業の後の記述式アンケートへの評価によって測定した。

さらに、同科目では、世界の多様性、および経済問題・社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができる力を養うために、ミクロ経済学の理論を踏まえたうえで、その理論とは異なる社会科学の諸学説も参照しながら、日本と世界の経済の歴史を学ぶ。そのなかで、参照する理論が異なれば同じ問題でも異なった側面からの考察が可能であることを理解し、さまざまな経済問題・社会問題を複数の複数の学説を持って議論をする力を養成した。その達成度は、中間試験、定期試験において、複数の学説を比較して論じる論述試験によって測定された。

### 4. 成績評価の基準

中間試験 40%、定期試験 50%、宿題（Web 上での小テスト） 10%

5. 上記のアセスメント項目の力を身につけていたかを測定するために、成績評価は適切であったか  
中間試験、定期試験は、ともに問 1、問 2 から校正されている。問 1 では、3 ないし 4 つの文章から正しい文章を選択させる問題を 40 題出題した。これは、日本と世界の経済史に関する基本的な概念を単に覚えるだけでなく、正しい文脈で使用できるかを測るためである。問 2 では、経済史学説を、他の学説と比較して論じることを求める論述問題を出題した。これは、世界の多様性、および経済問題・社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができる力を測定するためである。

また、毎回の授業の後に Web 上で回答する小テストは、選択式で、授業の講義内容を確認するために行った。

これら中間試験、定期試験、小テストの 3 項目での点数を総合し成績評価を行うことで、B 以上の成績を獲得した学生は、日本・世界の経済・社会に関する知識を持ち、活用することができる力、および、世界の多様性、および経済問題・社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができる力を身につけたと考えられる。

6. 成績評価の分布

B 以上 70.7%、C 19.8%、D 4.5%、E,N 5.0%

7. 成績評価の分布は望ましい結果であったといえるか

70.7%の学生が B 以上の成績を修めており、7 割以上のが、日本・世界の経済・社会に関する知識を持ち、活用することができる力、および、世界の多様性、および経済問題・社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができる力を身につけたと考えられる。

しかし、残念ながら、3 割の学生は C 以下の成績しか修められなかった。今後、これ等の学生がより効果的に学習を進められるように、日常的な宿題の回数を増やすなどの授業改善を行いたい。

8. 学生自身は、達成度をどのように評価したか？

Semester 終了時に、この授業が、それぞれの力を身に付けるのに役立ったか、とのアンケートをポータルサイト上で行い、以下の回答を得た。回答数 174（履修者数 222）

社会問題を複数の視点から分析できる。

非常に役に立ったと思う	44%
多少役に立ったと思う	52%
あまり役に立ったと思えない	4%
まったく役に立ったと思えない	1%

人類の文化・歴史について適切な知識を持っている。

非常に役に立ったと思う	37%
-------------	-----

多少役に立ったと思う	56%
あまり役に立ったと思えない	7%
まったく役に立ったと思えない	0%

日本の文化・歴史について適切な知識を持っている。

非常に役に立ったと思う	32%
多少役に立ったと思う	59%
あまり役に立ったと思えない	9%
まったく役に立ったと思えない	0%

高い割合で役立ったと応えているが、回答していない学生も多数（48名）おり、今後さらなる分析が必要である。

### 3. 2018年度の検討の中で変更されたアセスメント・ポリシー

#### (1) アセスメント・ポリシー一覧

アセスメント項目	アセスメント指標
<p>(1) 経済学を用いて、社会現象を複眼的視点から論理的に理解・分析することができる。</p>	<p>【直接指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 必修科目「ミクロ経済学」「マクロ経済学」「経済数学入門」での達成度測定</li> <li>1. 各科目において、アセスメント・プランに示した内容が適切に教えられたかを検討</li> <li>2. 各科目の成績(B以上)から、アセスメント項目の達成度を測定</li> <li>3. 達成度を改善するために、必要な改善点を検討する</li> </ul> <p>【間接指標】全卒業生に対するアンケート調査によって測定 2019年3月18日にアンケートを実施する</p>
<p>(2) 数量的・統計的データを正確に理解することができる。</p>	<p>【直接指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 必修科目「基礎統計学」での達成度測定</li> <li>1. 各科目において、アセスメント・プランに示した内容が適切に教えられたかを検討</li> <li>2. 各科目の成績(B以上)から、アセスメント項目の達成度を測定</li> <li>3. 達成度を改善するために、必要な改善点を検討</li> </ul> <p>【間接指標】全卒業生に対するアンケート調査によって測定 2019年3月18日にアンケートを実施する</p>
<p>(3) 日本・世界の経済・社会に関する知識を持ち、活用することができる。</p>	<p>【直接指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 必修科目「経済と歴史」での達成度測定</li> <li>*「基礎統計学」を削除</li> <li>1. 各科目において、アセスメント・プランに示した内容が適切に教えられたかを検討</li> <li>2. 各科目の成績(B以上)から、アセスメント項目の達成度を測定</li> <li>3. 達成度を改善するために、必要な改善点を検討</li> </ul> <p>【間接指標】全卒業生に対するアンケート調査によって測定 2019年3月18日にアンケートを実施する</p>

<p>(4) 経済問題について、日本語や英語を用いて、他者の考えを正確に理解し、自らの考えを明確に伝えることができる。</p>	<p>【直接指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 必修の英語科目を含むインターナショナル・プログラムでの達成度測定</li> <li>- TOEFL, TOEIC のスコアを用いて英語コミュニケーション力の達成度測定</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. TOEFL IPT のスコアの上昇度を検討</li> <li>2. IP Level 2 に進む学生数を調査・増加策を策定</li> </ol> <p>【間接指標】 全卒業生に対するアンケート調査によって測定 2019年3月18日にアンケートを実施する</p>
<p>(5) 世界の多様性、および経済問題・社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができる。</p>	<p>【直接指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 必修科目「経済と歴史」「演習Ⅰ・Ⅱ」「演習Ⅲ」での達成度測定</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各科目において、アセスメント・プランに示した内容が適切に教えられたかを検討</li> <li>2. 各科目の成績(B以上)から、アセスメント項目の達成度を測定</li> <li>3. 達成度を改善するために、必要な改善点を検討</li> </ol> <p>【間接指標】 全卒業生に対するアンケート調査によって測定 2019年3月18日にアンケートを実施する</p>
<p>(6) 経済学の学修を通じて、自らの行動を律し、他者と協力しながら、目標を達成できる。</p>	<p>【直接指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 必修科目「演習Ⅲ」での達成度測定</li> </ul> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 各科目において、アセスメント・プランに示した内容が適切に教えられたかを検討</li> <li>2. 各科目の成績(B以上)から、アセスメント項目の達成度を測定</li> <li>3. 達成度を改善するために、必要な改善点を検討</li> </ol> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 1年次と4年次に受験する就業力測定試験によって測定</li> <li>1年次、4年次の就業力テストを、それぞれ、2019年1月、2018年9月に行い、4年間で就業力がどれだけ向上しかを検討する</li> </ul> <p>【間接指標】 全卒業生に対するアンケート調査によって測定 2019年3月18日にアンケートを実施する</p>
<p>(7) 社会の発展、人びとの幸福への方途を、経済学を用いて提案することができる。</p>	<p>【直接指標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>- 必修科目「演習Ⅲ」、および「演習Ⅳ」「卒業論文」での達成度測定</li> </ul>

	<p>1. 各科目において、アセスメント・プランに示した内容が適切に教えられたかを検討</p> <p>2. 各科目の成績(B 以上)から、アセスメント項目の達成度を測定</p> <p>3. 達成度を改善するために、必要な改善点を検討</p> <p>【間接指標】全卒業生に対するアンケート調査によって測定 2019 年 3 月 18 日にアンケートを実施する</p>
--	--

## (2) 演習用ルーブリック

1. ルーブリックを用いた演習 I, II, III, IV および卒業論文評価によって経済学を用いて問題を解決する力などの達成度を測定する。

### 【演習 I・II】

演習 I・II では、世界の多様性、および経済問題・社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができる力を養うために、各専門分野の基礎から中級レベルの内容を、テキストの学習や、ディスカッションを通して学び、さらにそれらの専門知識を用いて具体的な社会問題を分析する手法を学ぶ。その達成度を、課題の内容、プレゼンテーションのクオリティ、ディスカッションへの貢献について、以下の学部共通のルーブリックによって評価する。以上の達成度の測定によって、成績が B 以上の学生は、上記の力の基礎を修得できたと考える。

また、授業評価アンケートで示されるシラバスの到達目標の達成度などによって、授業・成績評価の内容が上記の力の修得に適切であるかを精査し、必要な場合には改善を図る。

### 演習 I・II ルーブリック

	非常によい 5	よい 4	あまりよくない 3	よくない 2	評価対象外 1
課題	課題に真剣取り組み、毎回、非常に質の高い回答を準備している	課題に真剣取り組み、おおむね質の高い回答を準備している	課題に真摯に取り組んでいるが、回答の質はあまり高くはないことが多い	課題に真摯に取り組んではいないことがある	課題に取り組んでいない
プレゼンテーション	入念に準備されており、内容・構成が明確で、かつプレゼンテーションの姿勢も	入念に準備はされているが、内容の明確さ、構成、プレゼンの姿勢のうち一つで不	準備はされているが、内容の明確さ、構成、プレゼンの姿勢のうち2以上が不十分	準備が不十分で、内容の明確さ、構成、プレゼンの姿勢のいずれにも不十分な点がある	プレゼンの準備を行っていない

	優れている	十分な点がある	な点がある		
ディスカッション	根拠を明確に示した明確な発言(討議・質問)を積極的に行っている	発言は積極的に行うが、その内容が不明瞭であることもある	発言は積極的に行うが、その内容が不明瞭であることが多い	発言を積極的に行わない	まったく発言しない

S評価 15点、A評価 14-12点 B評価 11-10点 C評価 9-8点 D評価 7-6点 E評価 5点以下

\*点数区分の変更

### 【演習 III】

演習 III では、世界の多様性、および経済問題・社会問題の多面性を理解し、適切な議論を行うことができる力を、また、経済学の学修を通じて、自らの行動を律し、他者と協力しながら、目標を達成できる力を、さらに、社会の発展、人びとの幸福への方途を、経済学を用いて提案することができる力を養うために、グループによるリサーチを行い、学部内でのゼミ対抗研究発表大会や学外のコンペで成果を発表する。さらに、その成果をジュニア・ペーパーとして提出する。その達成度は、リサーチのクオリティ(課題発見・問題解決、客観的分析・明確な主張)、チームへの貢献について、以下の学部共通のルーブリックによって評価される。

以上の達成度の測定によって、成績が B 以上の学生は、上記の力の基礎を修得できたと考える。

また、授業評価アンケートで示されるシラバスの到達目標の達成度などによって、授業・成績評価の内容が上記の力の修得に適切であるかを精査し、必要な場合には改善を図る。

### 演習 III ルーブリック

	非常によい 5	よい 4	あまりよくない 3	よくない 2	評価対象外 1
課題発見・門会解決	先行研究を踏まえてオリジナリティがある問題を設定し、実現可能性のある解決策を提示している	先行研究の検証、問題のオリジナリティ、解決策の実現可能性のうち一つが不十分である	先行研究の検証、問題のオリジナリティ、解決策の実現可能性のうち2つが不十分である	先行研究の検証な、問題のオリジナリティ、解決策の実現可能性のうちいずれもが不十分である	先行研究のコピペの水準
客観的分析・明確な主張	課題について客観的な分析を行い、自らの主張を明確なサポートとともに提示している	課題についての客観的分析、明確なサポートを伴う主張が行われているが、やや改善の余地がある	課題についての客観的分析、明確なサポートを伴う主張のうちいずれかが不十分である	課題についての客観的分析、明確なサポートを伴う主張のうちいずれもが不十分である	分析が行われておらず、主張もない

チームへの貢献	リサーチを成功に導くため、チームの課題を明確にし、その解決のために積極的に取り組んでいる	リサーチを成功に導くため、チームの課題の解決のために取り組んでいる	リサーチには参加しているが、チームの課題の解決のために積極的に行動することはない	リサーチへの参加が積極的ではなく、決められたミーティングに来ないなどチームの足を引っ張るような行動が多い	リサーチのチームに事実上参加していない
---------	--	-----------------------------------	--	--	---------------------

S評価 15点、A評価 14-12点 B評価 11-10点 C評価 9-8点 D評価 7-6点 E評価 5点以下

\*点数区分の変更

### (3) 卒業論文研究ルーブリック

#### 【演習 IV・卒業論文研究】

演習 IV・卒業論文研究では、社会の発展、人びとの幸福への方途を、経済学を用いて提案することができる力を養うために、教員の指導の下、個人で課題を設定して、経済学を用いてその解決策を提示する。その達成度は、以下の学部共通のルーブリックによって評価される。以上の達成度の測定によって、成績が B 以上の学生は、上記の力の基礎を修得できたと考える。

また、授業評価アンケートで示されるシラバスの到達目標の達成度などによって、授業・成績評価の内容が上記の力の修得に適切であるかを精査し、必要な場合には改善を図る。

#### 卒業論文評価基準

規準項目	達成度	評価指標
1. 研究の問い	5	研究の問いは明確に述べられ、経済学的意義が明確に示されている。さらに、研究の独創性が明確に示され、既存の研究のなかで位置づけられている。
	4	研究の問いは明確に述べられ、経済学的意義が明確に示されている。
	3	研究の問いは明確に述べられ、経済学的意義が部分的に示されている。
	2	研究の問いは述べられ、経済学的意義が部分的に示されている。
	1	研究の問いが明確に述べられていない。
2. 背景と正当化	5	十分な先行研究が参照され、明確に既存の研究の問題点を指摘でき、明らかに主題は正当化されている。
	4	十分な先行研究が参照され、既存の研究の問題点を指摘でき、主題は正当化されている。
	3	十分な先行研究が参照されているが、既存の研究の問題点の指摘および主題の正当化には、不明瞭な個所がある。
	2	先行研究を集めているが、列挙しているだけである。既存の研究の問題点の指摘は不完全か不明瞭である。
	1	先行研究が非常に少ない。または全く関係ない先行研究が参照されている。
3. 研究方法、分析	5	経済学の用語に基づいて、経済理論が正しく使用されている。また、検証すべき仮説と結果の解釈方法が明確に述べられている。
	4	経済学の用語に基づいて、経済理論が正しく使用されている。検証すべき仮説も述べられている。
	3	経済学の用語を使っているものの、経済理論が誤って使用されているか、問題の本質から逸れている。また、検証すべき仮説も曖昧である。
	2	経済理論とほとんど関係ないが、経済学の用語を使おうと努力している。ただ、検証すべき仮説が曖昧である。
	1	経済理論が全く使われていない。経済学の用語が使用されていない。検証す

		べき仮説が曖昧である。
4. 実証分析 (質的データ) ※歴史的な記録や資料、理論 経済学上の命題、また哲学的に正当化されている命題など	5	質的データを使い、様々な角度からの議論を尽くして、仮説を検証している。特に、異なる見解に関しても質的データを使って、慎重に考察している。
	4	質的データを使い、様々な角度からの議論を尽くして、仮説を検証している。ただ、異なる見解に関して、さらなる議論の余地がある。
	3	仮説を検証するために、質的データが用いられている。ただし、証拠の適用方法が単純であるか、検証のための議論が不十分である。
	2	適切な質的データを用いて、仮説の正当性を主張しようとしているが、根拠が薄弱である。
	1	質的データが使われていない。または誤って用いられている。
4. 実証分析 (数量データ) ※政府統計や、アンケート調査の結果、数値シミュレーションのデータなど	5	数量データを使い、統計的・計量経済学的手法を用いて、様々な角度から仮説を検証している。特に、異なる見解に関しても数量データを使った分析を行い、結果の頑健性を検証している。
	4	数量データを使い、統計的・計量経済学的手法を用いて、様々な角度から仮説を検証している。ただ、異なる見解に関して、さらなる分析の余地がある。
	3	仮説を検証するために、仮説検定や信頼区間、シミュレーション分析などが用いられている。ただし、その検証方法が単純であるか、分析が不十分である。
	2	適切な数量データを使用し、記述統計量やグラフを使って、主張の正当性を説明しようと試みている。
	1	分析に不適切なデータが使用されているか、不適切な手法が使用されている。
5. 要旨と結論	5	論文の内容が適切にまとめられ、結論部分は、理論やデータと整合的である。政策的な解釈などで、さらに興味深い問題提起がなされている。
	4	論文の内容が適切にまとめられ、結論部分は、理論やデータと整合的である。政策的な解釈、または限界性、今後の研究の方向性などが、ある程度示されている。
	3	論文の内容が適切にまとめられ、結論部分は、理論やデータと整合的である。ただ、政策的な解釈、または限界性、今後の研究の方向性などが、ほとんど示されていない。
	2	論文の内容がまとめられ、結論部分は、理論やデータとおおむね整合的である。
	1	論文のまとめが曖昧であるか、結論が述べられていない。もしくは、結論部分は、これまでの議論との関連性が希薄である。
6. 言語と形式 ※章立て、段落、文法、綴り、文の構造、フォ	5	論文として構成が明瞭で一貫している。洗練された文章で、記述において間違いが存在せず、要求された形式で正しく書かれている。
	4	論文として構成が明瞭で一貫している。文章の記述において重要な間違いが存在せず、要求された形式で正しく書かれている。

フォーマット、レイアウト、文字数、参考文献の書式	3	論文として構成がほぼ明瞭であるが、文章の記述において、いくつかの間違
	2	論文として構成がほぼ明瞭であるが、文章の記述において、重要ないくつかの間違
	1	論文として構成が明瞭ではない。文章記述に関して、重大な間違いが多々あり、必要な形式を満たしていない。*「剽窃がある」を削除

評価基準と達成度

S … 26 点以上

A … 21 点～25 点

B … 16 点～20 点

C … 12 点～15 点

D … 9 点～11 点

E … 6 点～8 点

なお、「創価大学定期試験における不正行為者の取扱いに関する内規」「受講モラルガイドライン」より、盗作がなされた卒業論文は単位不認定などの処分に該当します。以下の行為はいずれも著作権侵害にあたることもあり、不正行為です。

- ・課題やレポート作成などに、他人の文章や考えを自分のものとして提出・発表すること（これを剽窃と言う）
- ・他人の著作物を盗用すること
- ・他人の調査結果のデータを捏造・偽造すること
- ・インターネットからコピー&ペーストすること

出典：創価大学「学生生活ポリシー」<https://www.soka.ac.jp/campuslife/support/policy/>  
(閲覧日 2018 年 4 月 2 日)

剽窃を回避するために、学術文章作法の授業で使用した「レポート作成の手引き」

<https://plas.soka.ac.jp/csp/plas/files/info/reportGenerationGuide.pdf> を参考にしてください。

\*青字部分を追加

#### (4) 卒業論文研究の英語版ルーブリック

### Evaluation of Capstone

Evaluation Step	Score	Criteria
1. Developing an effective research question	5	Research question is clearly stated, and the significance of economic analysis is shown obviously. Furthermore, it clearly explains the originality or creativity in the contexts of existing literature.
	4	Research question is clearly stated, and the significance of economic analysis is shown obviously.
	3	Research question is clearly stated, and the significance of economic analysis is shown partially.
	2	Research question is stated, and the significance of economic analysis is shown partially.
	1	Research question is not stated.
2. Surveying the literature on the topic	5	It reviews previous studies sufficiently, and they are clearly tied to major deficiencies or gaps in existing literature, supporting the research question obviously.
	4	It reviews previous studies sufficiently, and they are tied to major deficiencies or gaps in existing literature, supporting the research question.
	3	It describes the summaries of previous studies. However, they are not clearly tied to major deficiencies or gaps in existing literature, and they do not support the research question sufficiently.
	2	It just shows a list of previous studies. It does not clearly point out major deficiencies or gaps in existing literature.
	1	It reviewed few literature or completely irrelevant literature.
3. Economic Approach	5	It uses economic language, and it applies economic theory appropriately. It explains research hypotheses and how to interpret corresponding results clearly.
	4	It uses economic language, and it applies economic theory appropriately. It explains research hypotheses.
	3	It uses economic language. But it apply economic theory wrongly, or it is apart from the essential issue or problem. Research hypotheses are somewhat unclear.
	2	It connected economic theory a little, but it attempts to use economic language. Research hypotheses are somewhat unclear.
	1	It does not apply economic theory. It does not use economic language. Research hypotheses are unclear.
4. Analysis:	5	It uses qualitative data to examine hypotheses from various aspects. Especially, it

<p>qualitative data</p> <p>※ Historical records or archives, propositions of economic theory, philosophically justified propositions, and so on.</p>	<p>4</p> <p>3</p> <p>2</p> <p>1</p>	<p>remarks careful considerations for different opinions, using qualitative data.</p> <p>It uses qualitative data to examine hypotheses from various aspects. However, there is a room to discuss further for different opinions.</p> <p>It uses qualitative data to examine hypotheses. However, the approach is naïve or it does not discuss the issue sufficiently.</p> <p>It attempts to use appropriate qualitative data, but failed to support hypotheses.</p> <p>It does not use qualitative data, or use it wrongly.</p>
<p>4. Analysis: quantitative data</p> <p>※ Government statistics, questionnaire survey, simulated data, and so on.</p>	<p>5</p> <p>4</p> <p>3</p> <p>2</p> <p>1</p>	<p>It uses quantitative data and test hypotheses from various aspects, by using statistical and econometric approaches. Especially, it tests the robustness of the results for different opinions, using quantitative data.</p> <p>It uses quantitative data and test hypotheses from various aspects, by using statistical and econometric approaches. However, there is a room to analyze further for different opinions.</p> <p>For examining hypotheses, it applies the approaches of statistical hypothesis testing, confidence intervals, simulation analysis, and so on.</p> <p>It uses appropriate quantitative data, descriptive statistics, and figures, and attempts to support its claims.</p> <p>It uses inappropriate data nor inappropriate methods.</p>
<p>5. Abstract and conclusion</p>	<p>5</p> <p>4</p> <p>3</p> <p>2</p> <p>1</p>	<p>Abstract summarizes the content of capstone appropriately, and conclusion is supported by theoretical/empirical results. It raises interesting research topics on policy interpretations, and so on.</p> <p>Abstract summarizes the content of capstone appropriately, and conclusion is supported by theoretical/empirical results. It shows policy interpretations, limitation, or future research directions, to a certain extent.</p> <p>Abstract summarizes the content of capstone appropriately, and conclusion is mostly supported by theoretical/empirical results. However, it does not show policy interpretations, limitation, or future research directions.</p> <p>Abstract summarizes the content of capstone, and conclusion is mostly supported by theoretical/empirical results.</p> <p>The summary of capstone is unclear, or it does not remark conclusion. Or, conclusion is not related to previous discussion.</p>
<p>6. Language and format</p> <p>※ constructions</p>	<p>5</p>	<p>Argument and writing are clear and organized with professional presentation of results, and there is no grammatical and spelling errors. It satisfy the requirements of format.</p>

of chapter, paragraph, grammar, spelling, structure of sentence, format, layout, number of words, format of references	4	Argument and writing are clear and organized, and there is no major grammatical and spelling errors. It satisfy the requirements of format.
	3	Argument and writing are mostly clear and organized, but there are several grammatical and spelling errors. It mostly satisfy the requirements of format, but it contains some mistakes.
	2	Argument and writing are mostly clear and organized, but there are some major grammatical and spelling errors. It does not satisfy some of the requirements of format.
	1	Argument and writing are disorganized with substantial grammatical and/or spelling errors, unintelligible argument and writing, unprofessional presentation of results. It does not satisfy the requirements of format.

Grades:

S: Higher than 26 points

A: Between 21 and 25 points

B: Between 16 and 20 points

C: Between 12 and 15 points

D: Between 9 and 11 points

E: Between 6 and 8 points

Requirements:

Main documents: About 9,000 words.

Abstract: About 900 words.